

Flying Fish

No. **70**
2017.7

20th Anniv. Special

特集／20周年、今日まで、そして明日から。





KUT Chronicle
高知工科大学
編年史



弘暁期 1992 ~ 1996
 高知工科大学 開学 1997
 私立大学期 1998 ~ 2000
 私立大学期 2001
 私立大学期 2002 ~ 2003

開学にいたるまでの約5年の想い



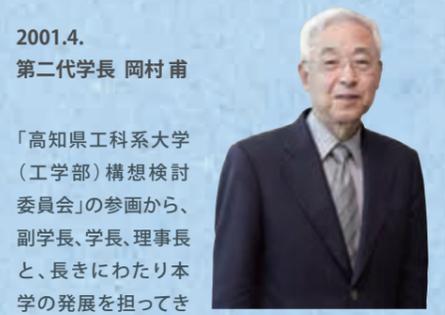
初代理事長 橋本 大二郎

平成4(1992)年6月の「高知県工科大学(工学部)構想検討委員会」設置から平成8(1996)年12月19日に文部省から大学設置及び学校法人の認可を受ける。約5年間に於ける高知県からの財政援助は300億円にのぼり、高知県の工学系の人材育成に於ける想いの強さをここに結集した。



初代学長 末松 安晴

平成5(1993)年4月、「工科大学計画策定委員会」に会長として参画以来、本学の設立に尽力し、「人間力教育の実践の場となる大学をつくらう」と先駆的な取り組みを次々と提案。クォータ制やインターンシップ、大学院の起業家コースなど、時代の先を行く取り組みは本学の特色となった。



2001.4. 第二代学長 岡村 甫

「高知県工科大学(工学部)構想検討委員会」の参画から、副学長、学長、理事長と、長きにわたり本学の発展を担ってきた。世界標準の大学をめざし、末松学長がつくった大学としての理想の形をシステム化することに努め、教育講師制度や授業評価など日本の大学になかった仕組みを形にした。

1995.10.28 香美キャンパスの建設工事が開始



初めての入学試験

「推薦入試」を高知市で1月に、「一般入試A」を2月に、「一般入試B」を3月に実施。全国から人材を集めるとの趣旨のもとに、一般入試は、高知市ほか全国主要8都市(松山、広島、福岡、大阪、名古屋、東京、仙台、札幌)で実施し、46都道府県から2,129名が受験した。合格者は930名、入学者は38都道府県から569名であった。高知県内からは228名が入学した。

←第1期生募集用ポスター



1996.9.25(高知新聞) ロゴマーク発表

人類が未来永劫守っていかないとけない海の青(マリンブルー)と樹々の緑(オリーブグリーン)をテーマにした大学ロゴは自然に恵まれた施設環境、大切な地球環境を守ってきたいという願いが込められています。



私からも ヒトコト

第1期生から...

伊東 禅さん 株式会社日立製作所 機械制御システム部勤務 知能機械システム工学科に1期生として入学。入学当初はまだあちこち工事中で、道路は未舗装、池もしばらく水が張られず、初めて校内を回った時は不安になったものですが、新設校だから自由に何でもできそうと思った通り、研究に、遊びに思い切り取り組みました。徳島市・高知市間を、製作した電気自動車で走るレースに参加したことなど良い思い出です。機械制御や論文作成の基礎は社会に出てから役にたっていると感じています。

特集 / 20周年、今日まで、そして明日から。

人間に喩えれば
成人式を迎える若者。
まさに青春まっただ中。

1997年4月、高知県唯一の工学系大学として開学した高知工科大学は、今年で20周年の節目を迎えます。「大学のあるべき姿を常に追求し、世界一流の大学を目指す」という高い志のもと、絶えず進化を続け、未知の領域を切り拓いてきた精神は、今も脈々と受け継がれています。「開学から20年」という年月は、これからも続く長い歴史の中のはんの序章に過ぎません。「日本にない大学」であり続けるために、50周年、100周年を見据えて、すでに前へと歩み出しています。

- 特集 / 20周年、今日まで、そして明日から。 01-04
- 高知工科大学と私 05-06
- トーク 学長・副学長対談 07-08
- 真の、人が育つ大学をめざして。20th anniv. Projects 09-10
- KUT マニアになろうー! 11-12
- KUT News à la carte 13-14

KUT
Flying
Fish



私立大学期 2004'2005

高知工科大学 開学10周年 2006

私立大学期 2007

私立大学期 2008

高知工科大学 公立大学法人化 2009

公立大学法人 2010'2012

公立大学法人 2013'2014

法人統合 2015

高知工科大学 開学20周年 2017

2004.3 新教育研究棟C棟の完成

教育研究棟B棟を延長増設する形で新しい教育研究棟(鉄骨鉄筋コンクリート造5階)を建て、教育研究環境の改善を図った。



2006.4 認証評価適合認定 および大学基準協会加盟

2006.4~ 開学10周年記念事業

KUTブランドの構築、お世話になった方々への感謝の意の発信、学内外関係者の意識向上を目的とした開学10周年記念事業を展開。開学10周年記念ロゴマークをはじめ、最先端テクノロジーで日本を洗い直すアイデアを募集した全国高校生ニッポン洗濯プロジェクト、KUTのイメージカラーの一つである青い車体と10周年バージョンの白い車体の電車の運行など、様々な事業を展開した。

キャッチフレーズに込めた思い

2000年に就職し、学生募集を担当していた当時から、末松先生の「日本に今までない大学を創った」という言葉通り、日本初のシステムが数多く採用されている本当におもしろい大学でした。残念ながらそれが外部にうまく伝わっておらず、何かひとことで大学の魅力を言い表せる言葉を模索していました。検討を重ねた結果、先ほどの末松先生の言葉をいただくことに。おかげで現在でも使われ続けるインパクトあるキャッチフレーズを創ることができました。

高知工科大学 事務局長(永国寺キャンパス担当) 福田 直史

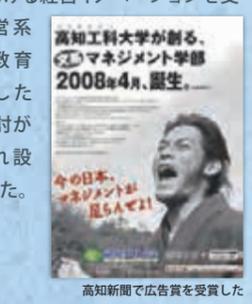
2007.4 ナノ創製センター完成

教育研究棟A棟北側、C棟南側に、鉄筋コンクリート造2階建てのナノ創製センターが竣工した。

私からもヒトコト

2008.4 マネジメント学部の開設

入学定員100名の「マネジメント学部」を設置。これまでの高知工科大学の成果を生かし、社会に貢献できる人材を輩出し、教育・研究を通じて社会に貢献するためには、経営系学部の存在は不可欠であるとの考えから、従来の工学系の人材教育に加え、今後の社会・企業等における経営イノベーションを支える経営系の人材教育を展開したいと、検討が進められ設置に至った。



2008.4 第三代学長 佐久間 健人

マネジメント学部の設置、工学部再編、公立大学法人化、地域連携機構の設置など、変化する時代の中で本学の将来のあり方を深く考え、革新的な改革を次々と実現。課外活動の支援にも力を入れ、スポーツ推薦を開始。卓球部を中心に成果を上げ、「スポーツに強い大学」としても評価を高めた。

日本にない大学の本領発揮!

本学は、私立大学から公立大学法人に換わる我が国で初めての試みに挑戦した。多くの課題をクリアする必要はあったが、文部科学省、総務省、高知県の支援を受けて、2009年から「公立大学法人高知工科大学」として新たな一歩を踏み出すことができた。

2009.4 工学部を廃止し、3学群13専攻に改組

工学部を廃止し、システム工学群(入学定員170名)、環境理工学群(入学定員90名)、情報学群(入学定員100名)の3学群に改組する。

私からもヒトコト

公立大学第1期生から千載一遇のチャンスでした!

国公立大学への入学を志望していた自分にとって、私立の受験日程で公立大学を受験できることは絶好の機会でした。情報系の専門的な学びについて行けるかどうか不安はありましたが、講義内容も分かりやすく、質問にも丁寧に回答いただいた先生方のおかげで、IT企業で働く基盤を作ることができました。KUTへの入学を決意したことは、自身の選択が正しかったと胸をはって言えます。

相川 由樹さん 情報学群情報通信専攻卒業 みずほ情報総研株式会社勤務

文武両道、グローバル化に向けた様々な施策

総合体育館や香美球場、国際交流会館など施設の充実とともにアドバンスプログラムやジョン万次郎プログラムなど、研究やグローバル化を推進するプログラムも立ち上がった。

2012.4 総合体育館の運用開始

卓球場、武道場、弓道場とこれらに併設するクラブ棟が整備され、既存の体育館を含めた複合施設として、総合体育館が運用を開始した。

2014.4 KUTアドバンスプログラム開始

成績上位層を対象に、学生の目標や希望に応じて、学生自身が主体的に科目、活動、制度を選択・アレンジし、成長をめざすことができるプログラムを開発した。

2013.9 国際交流会館: International House完成

学生の国際的なコミュニケーション能力向上を図るため、留学生と日本人学生が入居する学生寮、茶室および交流スペースを有する国際交流会館が完成した。

2014.4 ジョン万次郎プログラム開始

グローバル化へ向けた様々な施策やイベント及び英語学習支援制度を有機的に結びつけることで、異文化を理解できる国際コミュニケーション能力と英語学習のモチベーションを一段と高めることを目的としたジョン万次郎プログラムを開始した。

高知県公立大学法人に統合

高知県立大学を運営する高知県公立大学法人と公立大学法人高知工科大学が法人統合を行い、高知県公立大学法人による1法人2大学の運営体制となった。永国寺キャンパスへの法人本部設置や2キャンパスでの大学運営になるなど、大きな転換期となった。

2015.4 永国寺キャンパス運用開始

永国寺キャンパスは、高知県立大学文化学部、高知短期大学との共同で利用し、マネジメント学部と経済・マネジメント学群の2年生以上が学ぶ。

2015.4 経済・マネジメント学群に改組

2015.4 システム工学群の専攻変更

2015.4 香美寮、たかそね寮運用開始

2015.4 第四代学長 磯部 雅彦

特待生を中心とした優秀な学生に向けたKUTアドバンスプログラムの導入のほか、今年度から学部・修士の6年一貫教育を念頭に、基礎教育の充実に向けた主要科目の1~3限化を実施。「常に進化を続ける大学」という本学の強みを受け継ぎ、あらゆるシステムのグレードアップに取り組んでいる。

KUT Youth Ambassador 第1号誕生

国際マネジメントプログラムに興味を抱いて入学し、1年次にタイ・シンガポール研修、2年次にアメリカ・ミズーリ大学短期留学と積極的に参加。3年次にオーストラリア・西シドニー大学へ1年間の留学を果たしました。このように大学の制度を積極的に利用し、英語能力や国際感覚を磨くことができ、さらにKUT Youth Ambassador第1号の荣誉にあずかることができました。

鳥山 貴生さん マネジメント学部 2017年卒業 日本タッパーウェア株式会社勤務

私からもヒトコト

2017.3 永国寺キャンパスに図書館、体育館・食堂が完成

高知工科大学と私



KUTらしい売店をめざして。

宮地 広子さん 売店アクセス

大学と地域を結ぶ売店になりたいと「アクセス」と命名されています。大学内の方だけでなく、地域からの希望にも応えたいと頑張ってます。私自身は笑顔を忘れず、レジでお待ちせしないように頑張ります。

01

『桜、夢開く工科大学』

浜田 正彦さん 地域連携機構地域共生センター長

私の大学人生は、大学創設前の地域との対話とハード整備から始まりました。今は、本学の建物も桜並木や樹木と調和し、独特の風景を醸し出し、多くの学生を含む来訪者を受け入れています。20周年を迎え「桜咲く学びの夢開く工科大」で在り続けることを祈念します。

02

03

To live is to learn.

DANIELS, Paul 教授 (共通教育教室)

To learn a new language is to open your mind, to broaden your horizon, to meet new people, and to experience new ideas. Keep living and keep learning at Kochi University of Technology.

04

よさこいの三日間は最高の思い出です。

織田 哲郎さん

作曲家、音楽プロデューサー、シンガーソングライター、高知工科大学客員教授

2013年、学生チームと一緒によさこいの曲を作り、地方車の上で演奏させてもらいました。これは高知で学生時代を過ごした私の長年の夢でした。昨年は20回連続出場を果たしたそうですね。これからも30回、40回と続けていってください。

大学と共に高知を元気に。

西山 彰一さん

宇治電化学工業株式会社 代表取締役社長

大学設立準備委員会からの永いお付き合いです。現在、共同研究が進展し、新規産業創出による県勢浮揚をめざしています。貴学で学び研究する人の輪が、幸せな生活の実現に向けて広がっていくことを祈っています。

05

2年生から研究室へ～社会に役立つ研究を！～

浅川 愛菜さん 環境理工学群 2年

この夏から杉本教授の機能性高分子化学研究室に配属させてもらうことになりました。これからの社会に役立つものを、と身の引き締まる思いです。素晴らしい先生と頼りになる先輩方に刺激をもらいながら充実した楽しい毎日を送っています。

06

高知工科大学と Flying Fish 達への期待。

神戸 宏名誉教授

科学技術を生み出し応用することで、地球温暖化など多くの困難な問題を乗り越えることができます。本学と、そしてここで育まれた若い空飛ぶ魚達が、共に未来に向けて飛び立ち、その力を大いに発揮することを期待します。

07

08

会長就任時に『あの福見がね～』といろいろな方から言われたことでした。(笑)

福見 寛重さん 同窓会長/工学部知能機械システム工学科 2001年卒業

そんな会長と優秀な役員で同窓会を運営しています。卒業生に一番身近な大学機関として皆様と共に工科大学を盛り上げていきたいと思えます。皆様のご参加をお待ちしています。

09

高知工科大学の名を世界にどーんと。

岩城 孝章さん 高知県副知事/事務局勤務(1997～2001年度)

開学から5年間、事務局で感動、苦勞も共にしてきた職員OBとして、ずっと大学の活躍に注目している応援者です。今も大学関係者の皆さんと交流を続けています。これからも大学の實力をもっとつけて、世界中にどーんと高知工科大学の名を広げていってほしいと願っています。

10

祝！高知工科大学20周年！！

鈴木 寛子さん YAMAKIN株式会社 勤務/工学部社会システム工学科 2002年卒業
大学院修士課程 起業家コース 2004年修了

学部在学中、地域密着型のコンビニエンスストア「O-bag」を起業しました。先生方や事務局の方々には大変お世話になり、とても素晴らしい学生生活が送れたこと、今でも感謝しています。今は地元の企業 YAMAKIN株式会社で頑張っています。

11

現在の職業から振り返る大学生活。

河岡 東次郎さん 高知県立高知工業高校機械科 教諭/システム工学群 2014年卒業
部活動やボランティア活動、研究活動など大学生活のどの場面を振り返っていても、今の職業に生かすことができる財産をたくさん得ることができました。高校生、在学生の皆さん、様々な世界に足を踏み込み、大学生生活を満喫しよう！

12

『ヤマモモ』

片岡 万知雄さん 株式会社とさでん交通代表取締役/事務局勤務(1997～2003年度)

季節を知らぬ素振りの 山桃の深緑を 桜と桂は刻む キャンパスの星霜 彩り四十 梅雨時はヤマモモを食べ歩いた 至高の一粒の主は今も秘したまま 今年も蜜実の古木は 糸雨を足許から朱に染め上げたのだろうか

13

留学生として KUT を修了して。

Wimol San-Um さん

泰日工業大学(タイ)大学院教授担当副研究科長、高知工科大学同窓会タイ支部長/博士後期課程留学生コース2010年9月修了

KUTでは特待生として、多くの国際学会で発表機会を得ました。学術面、またマネジメント面でも鍛えられたことが、今につながっていると感じます。協定校の教員として、今も海外研修の受け入れ等て KUTの国際交流に貢献できて幸いです。

16

「ネガティブ大学生」を変えてくれた場所。

窪内 彰さん

RKC高知放送 報道制作部/マネジメント学部マネジメント学科 2016年卒業

「本当にやりたいことをやればいい」といつも背中を押してくれたのは、大学時代の恩師の言葉です。記者として、社会人としてまだまだ新米ですが、大学時代の様々な経験が大きな糧となっていると信じて、学び成長していきたいと思っています。

15

共に歩んだ20年です。

寺村 勉さん 香美市商工会長

新入生を迎える「Welcome工科大」、「香美市を第二の故郷と想ってね」と始めた卒業式の「えん」、開業日を合わせた刃物まつり&大学祭「Flying Fish Festival」、これからはずっと一緒にやっていきましょう。

17

後援会としてこれからも学生を支援します。

岡崎 純男さん 高知工科大学後援会 会長

高知工科大学後援会は開学時より、施設・備品等整備や学生の支援に係る多くの事業を行ってきました。特に開学10周年の頃より学生の課外活動の支援充実を図ってきました。学生には文武両道に秀でる人間に成長して、生まれ育った地元へ貢献していただきたいです。

18

「僕らと緑は友達だ」

田村 嘉史さん

有限会社高知ガーデン土木 代表取締役

開学前より造園・植栽維持管理に携わってきました。海外からの来訪者も多くなったキャンパスを、今以上に素晴らしい環境に整え、そして、大学にいつ誰が来ても、安心して、喜ばれるような仕事を行うのが、私の夢です。

19

私も20周年！

岡田 有加さん システム工学群事務局

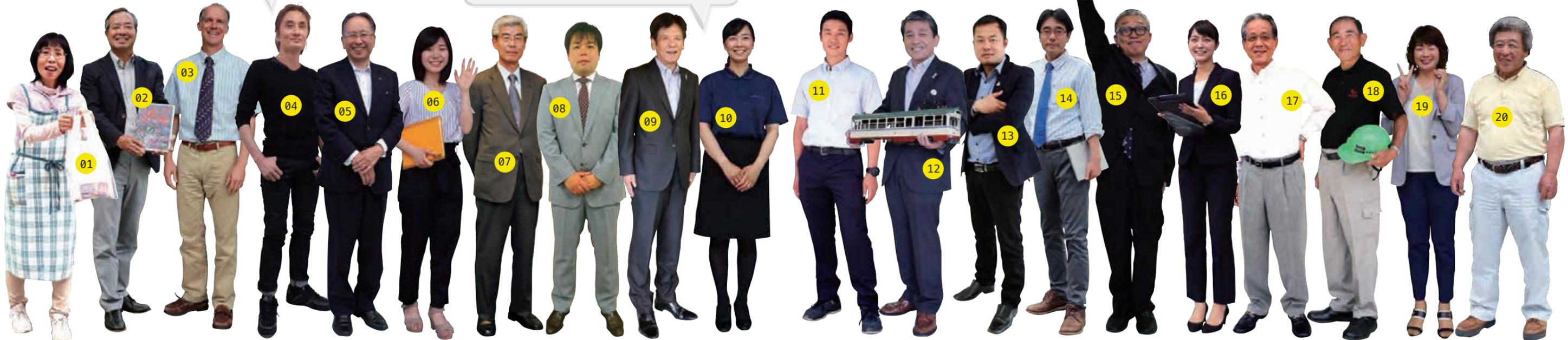
20年たった今、卒業生が立派な社会人となり仕事に関わるが増えてきました。「まだこの事務室にいたんですね」と驚かれながらも、懐かしさとともに新たなつながりの始まりが嬉しく、元気をもらっています。

20

みんな頑張れ！！ひとりじゃないよ。

常石 勝さん ドミトリ-管理人

「おんちゃん、何ちゃ～用事はないけど寄ってみた」と寮生や元寮生が立ち寄ってくれるのがうれしい。管理人としての務めは、寮生に声掛けし、笑顔で会話を交わすこと。早く名前と顔が一致するよう日々努力、みんな頑張れ。



「日本にない大学」として歩み続けた20年、 これからも時代の先を走り続けるために。

「開学から20年」という節目を迎えた高知工科大学。現状に甘んじることなく、走り続けてきたこれまでの変遷をどう捉え、これからどのように進化していくのか。磯部学長と清水副学長に、今力を入れている取り組みや未来への展望について語っていただきました。



学長：磯部 雅彦

東京都出身。1975年東京大学工学部土木工学科卒業、1981年工学博士。同大学教授、副学長を経て、2013年高知工科大学副学長、2015年学長に就任。東京大学名誉教授。海岸工学分野の第一人者として、南海トラフ地震の津波対策にも高知県や国のレベルで中心的に活躍する。プライベートでも海を眺めるのが好きで、日本中ほぼすべての海岸に足を運んできた。海に近く、食材豊富な高知で充実した毎日を送る。



副学長：清水 明宏

高知県出身。1981年愛媛大学工学部電子工学科卒業、1991年工学博士（大阪大学）。1981年日本電信電話公社 電気通信研究所に入所。1986年世界最高水準のセキュリティ強度を誇る暗号技術「FEAL」を開発。携帯電話やICカードに導入され、暗号研究の発展に大きく貢献した。NTTヒューマンインタフェース研究所主幹研究員などを経て、1998年に本学へ。2017年副学長に就任。国内外に特許多数。

教育・研究・社会貢献は 「多様性」がキーワード。

磯部 本学は開学以来、「来るべき社会に活躍できる人材の育成」を掲げ、教育・研究・社会貢献の中で最も教育に力を入れてきました。社会が目まぐるしく変化する中、長く生き続けるような知識や知恵を身につけるため、今年度から基礎教育の充実に取り組んでいます。カリキュラムを見直して科目数を絞り込み、授業は原則3限までとしました。学んだことがよりしっかりと身につくよう、午後の自由な時間を有効に使ってほしいと思っています。さらには海外で活躍できる力を身につけてもらおうと、国際化も強化しているところです。

清水 今世の中の大学へのニーズが多様化しつつありますが、開学当初を振り返ると、企業出身の教員が半数を占め、能力や個性もさまざまな学生が集まっていました。20年が経った今、企業出身の教員は減り、公立化によって似通った考え方の学生が増え、多様性が薄れているように感じます。本学がさらに進化するためにも、多様性は大事なキーワードになるんじゃないかと思っています。

磯部 たしかに大学というのは多様性が大事です。同じような教員から同じような教育を受けるだけでは、学生の成長の幅は狭まり、伸びる部分が限られますからね。

清水 これから本学は、多様性をまた前面に出していけるような方向に進んでいけたらと思っています。教育だけでなく、研究にも多様性が必要で、世界をリードするような研究を狙っている先生もいれば、日常の中で実用化できるような研究に取り組んでいる先生がいてもいい。いろんなタイプの研究者がいていいんじゃないかと思っています。

磯部 そうですね。清水先生はNTT時代に、画期的な特許を取得して経済的に非常に大きな貢献をされました。そうした成果は非常に重要ですが、理学的な分野で学術的にレベルの高い成果が超一流雑誌に掲載されることも、もちろん大切です。研究成果の出し方はさまざまだと思います。

清水 そうした力のある研究者たちが自由に研究できる土壌がここにはあります。私自身、NTT時代と比べてもその点はほとんど違和感がありません。そんないい面を維持しながら、さらに研究がしやすい環境を作っていきたいですね。

磯部 そして社会貢献では、本学だからこそできる専門性に基づいた活動を行うことが大切です。最近清水先生の研究室の学生が、高知県の観光情報を多言語で閲覧できるアプリを開発しましたね。それも地域貢献の好例です。

清水 これ以外にも、地域貢献につながる活動は積極的に行っています。

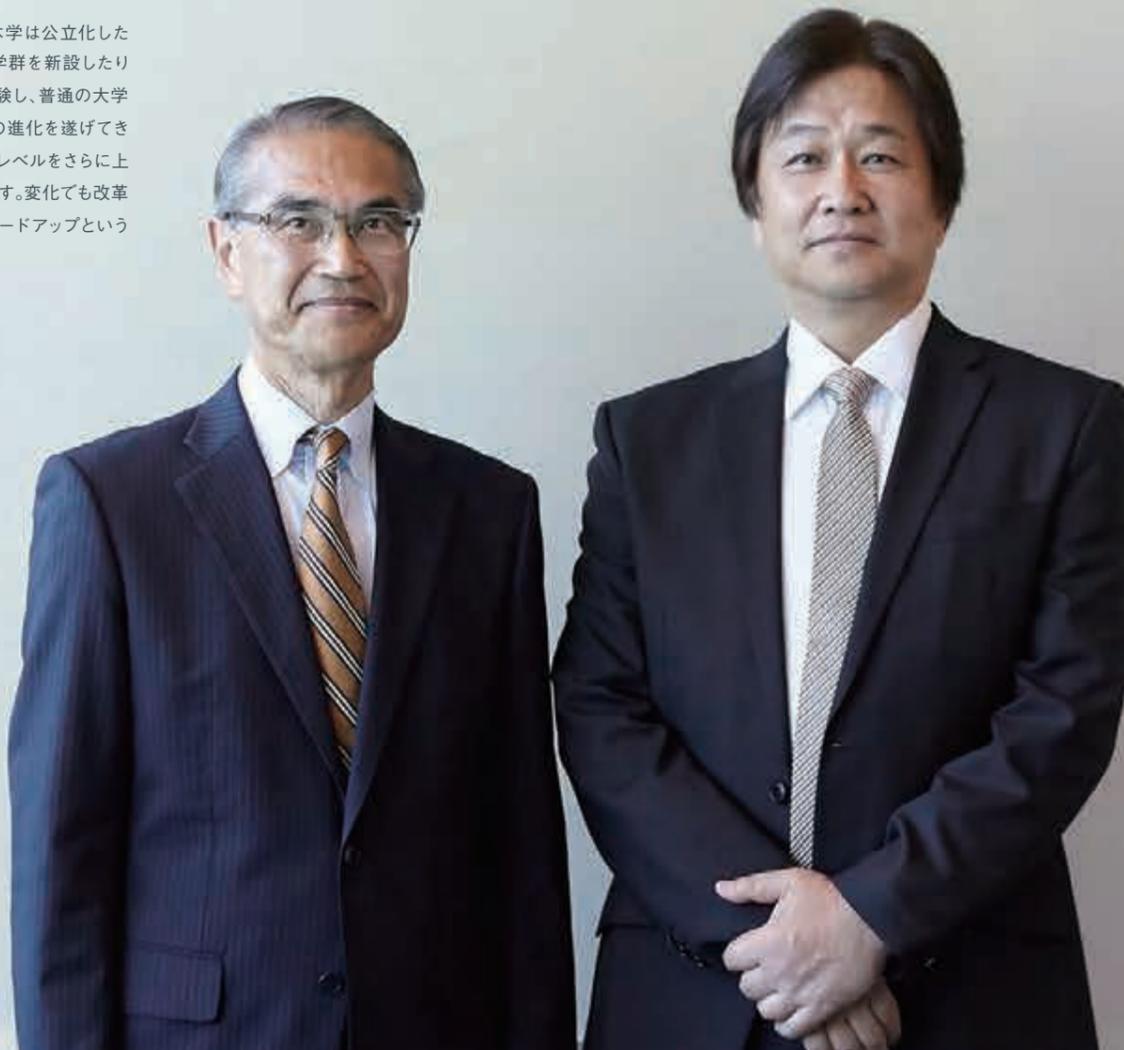
磯部 それぞれの専門技術や知識を生かして地域や社会に役立つものを作る。これこそが本学ならではの社会貢献の形です。

顔の見えるサイズ感を生かして さらなるグレードアップを。

磯部 今年度から清水先生が副学長に就任されましたが、ここでも多様性というキーワードは非常に重要です。清水先生は多くの企業での経験を持ち、実行力もあって、私にはできないことができる。そんな「自分とは違う人」と一緒にやってほしかったというのがお願いした理由です。

清水 お声がけいただけてうれしかったです。これはやりがいがあるなと思いましたね。

磯部 この20年間、本学は公立化したり、経済・マネジメント学群を新設したりと、さまざまなことを経験し、普通の大学では考えられないほどの進化を遂げました。これからは今のレベルをさらに上げることがすごく重要です。変化でも改革でも改善でもなく、グレードアップという言葉が一番近いですね。



清水 私は開学からずっと見てきていますが、20年間本当にいろんなことがありました。そのかいあって、本学の教育システムは実によく考えられています。今後は学内外のいろんな意見を聞きながら、さらに新しいものを取り入れて、よりよいものにしていく、ということですね。

磯部 そこはやはり大学の適正なサイズというのがあると思います。大学って大きすぎると変化しにくいんです。「教職協働」という言葉がありますが、本学では教員と職員が同じ地平に立ち、「学生のために本学はどうすべきか」という同じ思いを持って、教育や学生支援などあらゆる活動に取り組むことができます。教職員同士の顔と名前が一致して、フェーストゥフェースでいろんな話ができてというのは、非常にいいことです。新しいことをどんどん実行できるこのサイズ感を生かしていきたいと思います。

清水 ちょうどいいサイズ感こそが、本学の強みでもありますね。

「日本にない新しいこと」に 果敢に挑戦していく。

磯部 民間企業や自治体の方から、「高知工科大学の学生さん、よくやりますよ」という活躍の声を聞いたりしますが、本当の評価はまだまだこれから。1期生が今ちょうど40歳くらいで、これから第一線のリーダーとして活躍する時期です。そういう芽はあちこちで出ていると思います。

清水 私の研究室について言えば、企業の方から「清水先生の研究室の学生はよくできる」と言っていたら、何人も卒業生が在籍しているような企業がいくつもあります。これはすばらしいことだなと。小規模な大学だからこそ、学生一人ひとりに合わせたきめ細かな指導ができる。これも本学の強みですね。

磯部 学生一人ひとりの性格や長所、短所まで熟知し、テラーメイドな教育

や研究ができてるのは大きいですね。

清水 本学では教育だけでなく、大学運営に関しても、「こういうふうに変えてみよう」と思ったことがすぐに実行できます。磯部学長もダメだとは言わず、「やってみましょう」と言ってくださる方ですからね。

磯部 「やってみましょう」はもともと私の口癖ですが、本学には「走りながら考え、考えながら走る」というスタンスが伝統的にあります。それはやはり、思い切ったことをすぐに実行できるちょうどいいサイズ感だからこそ。失敗すればまたやり直せばいいんです。

清水 そうですね。振り返ると、歴代の学長もみなさん、そういう前向きな方々ばかりでした。

磯部 ヨーロッパの大学が1000年近い歴史を持っているのに比べれば、開学20年というのはまったく大したことではありません。特に急速に進化する工学の分野では、大学で得た知識はすぐに使えないものになるかもしれませんが、大学で育った人材はずっと生きていきます。卒業生たちがどういう活躍をしてくれるのかを楽しみにしながら、社会で生きる人材育成に取り組んでいきたいと思っています。

清水 開学から関わり、この20年はあっという間でした。今副学長という立場になり、さらに次の20年の方向性を示すことに少しでも貢献できればと思っています。そして、「日本にない大学」であり続けるためにも、多様性を大事にしながら、あらゆるところで存在感を発揮できる「際立っておもしろい大学」にしていきたい。できると思います。

磯部 「日本にない大学」に違わぬよう、常に日本にない新しい試みをやっていただきたいですね。もしAとBの二つの道があって、みんながAを選ぶなら我々はBを選ぶ。そして、Bという道に秘められた可能性を開拓していく。それが我々の使命ではないかと思っています。



高知工科大学 事務局長 小路 卓也

お二人の話を聞いていて、印象に残り、ありがたかったのは、やはり「教職協働」ということです。学生が育つための環境を、教員だけでなく職員も一緒になって考えていく、本学では開学以来、こうした考え方を伝統的に行ってきたわけですが、何らブレていないことが本当に嬉しく、ありがたいことと感じました。学長、副学長の思いを踏まえた上で、職員としてできることは何であるのか、常に自問自答しながらさらなる向上をめざして取り組んでいきたいと思っています。

真の、人が育つ大学をめざして。

20th anniv. Projects 1

基礎教育の充実に向けて、主要科目を1～3限化へ 人が育つためには自由な時間が必要

本学では教育改革の一環として、今年度から主要科目を「1～3限目」に配置し、学生の自由な学修時間を確保するという新たな試みを行っています。この取り組みを推進してきた教育センター長の古沢浩教授に、そのねらいや展望について話を聞きました。

高度な専門知識と幅広い視野を持つ人材を求める社会の要請に応えようと、本学では工学系学生の修士課程への進学率向上をめざし、「6年一貫教育」として基礎学力の向上に集中した教育改革を行ってきました。

「社会に出てから学べるようなスキルより、学群から修士の6年間で「一生涯に立つ基礎を徹底的に身につける」ことを念頭に置いています。そこは社会に出ても、大きな強みとして長く生き続けると確信しています」

その中で、ここ数年増加傾向にあった専門科目を厳選し、将来にわたって重要と判断する科目に絞り込んだ上で、「主要科目の1～3限化」を今年度から実施しています。14時半には主要な授業が終わるため、それ以降は自由な時間が生まれます。その時間を部活動

やサークル活動をはじめ、専門性を高める学修や専門性を生かした地域貢献など、「学生自らの興味・関心や好奇心を広げる活動に活用してほしい」という思いがあります。具体的には、学生主体の学修グループによる勉強会や授業に不安を抱える学生への院生による補講の実施、課題や研究への取り組みを学生同士が協力しあえる環境の提供などを行う予定です。

また6月には、学生主体による自主学修活動の学内公募をスタート。選ばれたグループには、活動の場として空き教室を提供したり、教員や院生が活動のサポートにあたり、活動資金を援助したりと、さまざまな面で支援を行っていきます。

「工学、経済・マネジメントの専門性を発揮しながら、地域貢献につながるような新たな活動が生まれ、後輩たちにも受け継がれていくのが理想です。ゆくゆくは一年生から何らかのグループに所属して、4・5限目は先輩と後輩と一緒に学びあえるような環境をつくってほしいですね」

「大学全体のラーニングコモンス化」をテーマに、大学全体で自主学修を推進し、学生が全員参加する「サークル活動化」をめざします。それによって、「専門の学びのおもしろさ」を1、2年生のうちから体感できるようにしたい」と古沢先生は話します。

「基礎教育の徹底」と「主要科目の1～3限化」の取り組みは、初代学長の末松安晴先生はじめ、歴代の学長が繰り返し提唱してきたことでした。創立からの悲願が20年目ついに達成できた、とも言えるでしょう。

学生たちの地道な活動が後輩に引き継がれ、午後の自由な時間は大学内のあちこちで小さなグループが議論を交わしている。一次の20年に向けて、そんな新たな伝統づくりが始まろうとしています。

大学全体のラーニングコモンス化で
学年を越えた学修活動を新たな伝統に。



教育センター長
古沢浩 教授 / 環境理工学群

20th anniv. Projects 2 新ユニフォームが様々な舞台で大活躍！

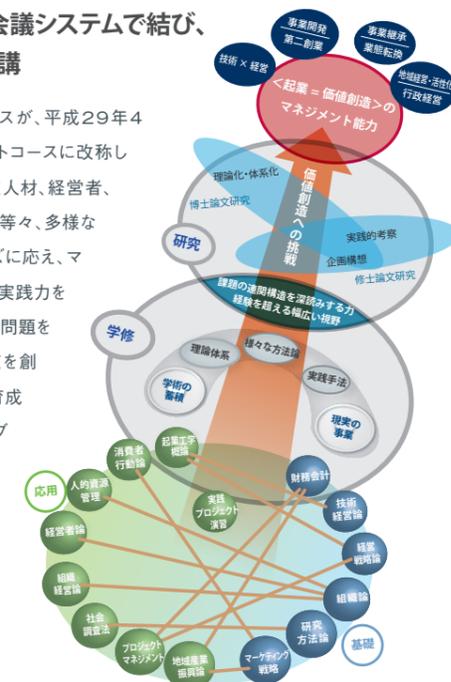
開学20周年の記念事業の一環として、それぞれの団体によって異なっていたユニフォームの配色を、グリーンを基調とした色調に統一しました。すでに様々な舞台で、この緑のユニフォームが活躍しています。キャンパス周辺の緑豊かな環境をイメージしたこの緑のユニフォームに、これからも熱いご声援をお願いいたします。



硬式野球部 宮田翔生くん	ソフトテニス部 崎山亮太くん 大塚香菜さん	男子バレーボール部 小松原康平くん 女子バレーボール部 武田万由子さん	ソフトボール部 堀江拓海くん	剣道部 大前晃くん 廣石紗里奈さん	男子卓球部 筒井空くん 女子卓球部 福島礼子さん
-----------------	-----------------------------	--	-------------------	-------------------------	-----------------------------------

20th anniv. Projects 3 東京、大阪、永国寺キャンパスの3教室を遠隔会議システムで結び、短期集中で開講

大学院起業家コースが、平成29年4月、起業マネジメントコースに改称しました。次世代中核人材、経営者、起業家、エンジニア等々、多様な社会人の教育ニーズに応え、マネジメントの理論と実践力を養い、高度で複雑な問題を解決し、新たな価値を創造するリーダーの育成をめざす教育プログラムを構築し、新たなスタートをきっています。



「社会人のための大学院
起業マネジメントコース」開始。

20th anniv. Projects 4

卒業生とご家族、現役教員、OB教員、職員等、総勢170名で大盛会

参加者の皆様は、中土佐町から本学の研究成果のスラリーアイスで直送した鯉のたたきを堪能しながら、懐かしい恩師を囲み、それぞれの近況や学生時代の思い出話で大いに盛り上がりました。今後も、卒業生の皆様が集まりやすい仕組みづくりを進め、皆様のご協力のもと、大学の基盤強化とさらなる飛躍を図りたいと思います。ご参加いただきました皆様、中土佐町地域振興公社の皆様、誠にありがとうございました。



7月15日「KUT同窓会 in おおさか」を開催！

知ってるようで知らないKUTのトリビア。これであなたもKUTマスターに！

KUTマニアになろうー！

■ KUTは学舎もグローバル！

外壁のレンガはイギリス製。タイルではなくホンモノのレンガをこれほど大量に使用する例は他に見当たらない。レンガは手積みで、よく見ると研究棟と本部棟で積み方が違うらしい。図書館や事務局などの青くみえるガラスはアメリカ製。当時選択透過性のガラスを日本では製造していなかったから、他にも床などの石材はベトナム産など、こだわりの建材を世界に求めた、まさにグローバルな学舎なのです。



■ シンボルタワーって何のためにあるの？

香美キャンパスのシンボリック存在の塔。実は以前はPHS※の電波塔だったんです。塔の4面にある時計は実は連動していないので、時間の調整は別々にしなければいけないという管理者泣かせの一面も。

※PHSとは、家庭内のコードレス電話を発展させた、携帯型電話機。電波の届く範囲は狭いものの、コストが安く、電磁波が少ないのが特徴。今も電磁波に配慮すべき医療機関などで現役で用いられています。



■ 日本の伝統色にこだわった配色

イギリス生まれのレンガですが、その色合いは土佐漆喰のベンガラ色を再現。屋根には「緑青」、内部にも「山藍摺」や「藁色」、「利休白茶」など日本の伝統的な色が使われています。そんなシンプルな配色のなか、A棟B棟の吹き抜け部分に突如現れる赤や黄色は、開学当時の5学科を表していたらしい。



■ 香美キャンパスが「しゅばしよ」と呼ばれる理由

香美キャンパスができる前、そこは県の林業試験場。そしてその前、戦前には軍馬を育成する国の機関「四国種馬所」がありました。そのため、今もこの場所を「しゅばしよ」という地元の方がいるのです。



■ 香美キャンパスの図書館横の池にもエピソードがいっぱい

まずは質問、あの池の名前は？……答えはセントラル池。まさに香美キャンパスの真ん中に位置する池です。景観目的だけではなく消防法上の「防火水槽」の役割も担っています。池を横切る通路はキャンパスの印象的なスポットのひとつ。水面の連続性を遮らないように飛び石型にしてありますが、通行人が池に落ちないように、石の幅や隙間の間隔を何度も実験して決めたそうです。長い廊下に紙に描いた石の絵をいろんな幅で並べて、背の高い人や低い人に実際に歩いてもらい、下を見ずに歩いてみ外しにくいものを選んだそうです。背の低い人が大股で歩くよりは背の高い人が小股で歩く方が踏み外しにくいことを発見し、小柄な人のピッチに合わせた飛び石の位置が採用されたということです。



■ 日本初！ IC機能搭載の学生証

本学では開学当初から電子マネーが使えていました。Edyではない大学独自のもので、実はこの学内電子マネーをキャンパスのある土佐山田町内へ展開しようという野望もあったようです。学生証はプリペイドカード機能を併せ持つ「統合ICカード」。各種証明書が、このカードで自動発行できる発行機は四国内の大学では初導入でした。



■ 駐輪場も日本初！

地下埋設機械式駐輪場は、1998年、地元高知県の株式会社技研製作所によって日本で初めて設置されました。2011年にリニューアルされ、レンタサイクル併用型に。このレンタサイクルで、自転車の前の部分に金と銀の色がついている自転車が出てくると「アタリ」。何かもらえるのかは定かではありません。

日本初の地下埋設機械式駐輪場



金・銀のプレート付自転車



■ 排水処理は「四十万川方式」

流しやトイレの排水は、敷地内の浄化槽で処理をされますが、最終的には、化学薬品などを一切使わず、木炭や枯れ木などの天然素材を使って水をろ過する、自然にやさしい水処理システム「四十万川方式」で、ほとんど川の水と変わらないほどの水質にまで浄化されます。その水はトイレの洗浄水や芝生への撒水に再利用されていました。

※現在は再利用せず、放流しています。

■ 「瞑想の間」が存在した図書館

開学当初、図書館の一角に瞑想用の空間が存在しました。これは初代学長の発案で置かれたもので、ひらめきを得たり、心を整えるための施設でした。最近アメリカ心理学会で認められ、注目を集めているマインドフルネス。そのような瞑想ができる空間を当時設置していたとは、かなり先進的な取り組みだと言えるでしょう。



■ 大学内でデザイン・設計された建物や施設も

地域連携棟附属棟・武道場は吉田准教授の研究室の設計によるもの。香美キャンパス最寄駅のJR土佐山田駅横の公衆トイレは、「建築デザイン演習」の講義でコンペを実施した学生のデザインが採用されています。また、グラウンドのナイター照明は重山教授のデザイン提案によるものです。



武道場



JR土佐山田駅トイレ

ナイター照明

■ 開学初年度からよさこい祭に参加

開学時のチームは学生がまだ少なかったこともあって教職員も踊り子として多数参加。衣装も凝ったものではなく、Tシャツに短パンという出で立ちでした。

2年目には「審査員特別賞」を受賞、その後3年間連続で受賞という快挙をとげ、今の学生たちの活躍の土台を作りました。



■ 高知工科大学のもうひとつの名物、それは桜！

隣接の鏡野公園は、「日本さくら名所100選」に選ばれ、昔から桜が美しいのですが、圧巻の約500m続く桜並木は、実は大学敷地内にある桜なんです。卒業記念の植樹も「枝垂れ桜」。グラウンド東側に北に向かって毎年植樹が行われています。ただ場所によって条件が違うのか、なかなか大きくならない木もあり、卒業年次の順に大きいとは限らないのです。



キャンパスに咲く桜



■ まだまだいっぱい、KUTの“ふーん”

- 高知工科大学には実はKUTPPAというキャラクターがいた。全国の高校生から募集し、選ばれたカップがモチーフのもの。
- 香美キャンパスには地下通路がある。池の下、A・B・C棟や講義棟、ドミトリーが地下でつながっている。
- 桜に松がくっついて育っている木、通称“ど根性松”と呼ばれる木がある。
- 高知工科大学からの絶景ポイントとしてお薦めが、教育研究棟の5階トイレからの眺め。一度お試しあれ。
- マンホールの蓋にまで大学名の英語標記とマークがついている。
- 第1回大学祭は学生が自主的に始めたもので大学行事ではなかった。名称「Flying Fish Festival」も学生公募で決定。
- 本館4階エレベータ扉のデザインは基盤の回路図を模したものの。
- 本館南側のシンボルツリーは、日本産だが関東の山まで探しに行ってみつけたもの。

Club activities

剣道部が西日本学生剣道大会で創部初のベスト8進出!



5月27～28日、福岡大学で「第62回 西日本学生剣道大会」が開催され、男子剣道部が創部初のベスト8進出、金滝 泰英(システム工学群4年)主将が、優秀選手に選ばれました。(105チーム出場)

2回戦で松山大学に僅差で勝利したことで、チームに勢いが生まれ、順調に勝ち進んだ4回戦では優勝候補(前年度本大会2位)の近畿大学と対戦。先鋒から一人ひとり大将へ繋ぐ粘り強い剣道を展開し、大将戦で金滝主将が関西屈指の実力者である選手に2本勝ちし、準々決勝に進みました。準々決勝の別府大学戦では、僅差で力及ばず、敗退しました。入賞まではあと一歩及びみせましたが、中四国地方の大学でベスト8まで勝ち上がったのは本学だけであり、チームとして取り組んできたことを発揮することができました。



硬式野球部春季リーグ終了、単独2位。創部初のAクラス入りが確定!

1部昇格後の最高順位が5位であった硬式野球部は、今リーグ最初の勝ち点を昨年の覇者である愛媛大学から上げ、好スタートを切りました。優勝した四国学院大学には敗れたものの、その他の4チームには全て勝利し、初のAクラス入りとなる2位で今リーグ戦を終えました。



【四国地区六大学野球 春季1部リーグ結果】

1位	四国学院大学	勝点 5	10勝 0敗
2位	高知工科大学	勝点 4	8勝 2敗
3位	高知大学	勝点 2	5勝 6敗
4位	愛媛大学	勝点 2	5勝 7敗
5位	松山大学	勝点 2	4勝 7敗
6位	鳴門教育大学	勝点 0	0勝 10敗

さくらおろち湖サイクリロードレースで優勝

5月28日、島根県雲南市さくらおろち湖自転車競技施設サイクリング周回コース(12.3km/周)において、2017さくらおろち湖サイクリロードレース(主催:島根県自転車競技連盟・島根県高等学校体育連盟)が開催され、本学サイクリング部の山本 健太郎くん(システム工学群3年)がスポーツクラスに出場し、優勝しました。

学生が朝日アマチュア囲碁名人戦県大会で優勝

4月16日、高知市において、第12回 朝日アマチュア囲碁名人戦県大会(朝日新聞高知総局、日本棋院県支部主催)が開催され、1次予選を勝ち抜いた8人がトーナメント方式で対局。決勝では昨年の県代表を破り、岡本 大和くん(経済・マネジメント学群1年)が優勝しました。

男子バレー部が春季リーグ戦で初優勝



5月13～14日、2017年度四国大学バレーボール春季リーグ戦大会が開催され、初優勝を果たしました。初戦・香川大学戦では、長江 大河選手(情報学群2年)を中心の攻撃で3-0で快勝。松山大学戦では、エース・早川 聖人選手(経済・マネジメント学群3年)、中村 充希選手(経済・マネジメント学群3年)の活躍で、劣勢からの大逆転勝利を収めました。2日目は春季リーグ12連覇中の愛媛大学と対戦。センターエースの池宗 龍之介選手とセッター田中 智哉選手(ともにマネジメント学部4年)のコンビ、センター逢沢 亘選手(経済・マネジメント学群2年)の活躍で勝利。最後の高知大学戦でも、高橋 怜士選手(システム工学群3年)などの活躍で3-0で快勝。4戦全勝で、悲願の初優勝! 四国1位として、「中四国学生バレーボール選手権大会」に臨み、結果3位という好成績をおさめました。

ソフトボール部が全国大会および西日本大会への出場権を獲得!



5月20～21日、全国大会への出場権がかかった「第52回 全日本大学男子ソフトボール選手権大会四国予選会」で見事3連覇を達成。全国大会および西日本大会への出場権を獲得しました。

準決勝

愛媛大学	000 002 0	2
高知工科大学	040 001 X	5

決勝

松山大学	001 100 0	2
高知工科大学	001 100 2X	4

卓球部が四国学生春季リーグ戦で完全優勝!



5月27～28日に「四国学生春季リーグ戦兼全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)予選会」が開催され、男子および女子卓球部が全部門制覇の偉業を成し遂げました。この結果、7月上旬に北海道・札幌市での「全日本大学総合卓球選手権大会」団体の部への出場が決定、全国の場でも活躍を繰り広げました。

東海岸フットサル大会・2クラスで準優勝

1月21～22日に、「第9回 高知東海岸フットサル大会」が開催され、オープンクラスおよびエンジョイクラスにおいて準優勝を飾りました。

Recipients of awards

情報学群の学生研究グループ「Uranus7」が観光功労団体表彰を受賞



2月1日、「2017年南国土佐観光びらき式典」で、学生研究グループ「Uranus7」の7名が、観光功労団体表彰を受賞。学生が受賞するのは賞の創設来初めてという快挙です。情報学群の授業「ソフトウェア工学演習」として、外国人観光客へのサービス向上と観光振興を目的に、独自でスマートフォン用の多言語観光案内アプリを開発。昨年4月からは、高知よさこい情報交流館を案内する「YOSANABI(よさなび)」及び高知市の観光施設を地図等で案内する「CHUism(ちゅうりずむ)」の開発に成功。高知市におけるインバウンド対策と観光事業の推進に大きく貢献したことが高く評価されました。

松本准教授が「省エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞」を受賞



地域連携機構 ものづくり先端技術研究室 室長 松本 泰典 准教授と室戸海洋深層水株式会社、四国電力株式会社、一般社団法人日本エレクトロヒートセンターの4機関による塩製造工場における廃熱等を活用した省エネルギーの取り組みが、「平成28年度省エネ大賞(省エネ事例部門)」の資源エネルギー庁長官賞(共同実施分野)を受賞し、2月15日に東京ビックサイトで表彰式が行われました。室戸海洋深層水の製塩システムの開発にあたり、本学は逆浸透膜と真空濃縮を併用した技術(特許第5062728号)を用い、豊富なミネラル分を損なうことなく、蒸気釜の伝熱係数を向上し、廃熱の再利用により製塩時間を短縮することで大幅なエネルギー使用量の削減を達成しました。

ディスプレイ国際ワークショップで Outstanding Poster Awardを受賞

2月7～9日、「第23回ディスプレイ国際ワークショップ/アジアディスプレイ2016(IDW/AD "16)」にて、環境理工学群 古田 守教授とドイツStuttgart大学 Large Area Microelectronics研究所所長 Norbert Fruehauf教授の共同研究グループが、Outstanding Poster Awardを受賞しました。



「日本機械学会 流体工学部門講演会」で最高峰の若手優秀講演フェロー賞を受賞



11月12～13日、「日本機械学会 第94期 流体工学部門 講演会」において、大学院修士課程 知能機械システム工学コース1年 松田 琳子さんが、同講演会の最高峰の賞である若手優秀講演フェロー賞を受賞しました。

学生の研究論文が学術論文誌に掲載され表紙を飾りました

博士後期課程 社会人特別コース 1年 田中 秀和さん(指導教員 前田 敏彦 教授)の研究論文が、Journal of the Ceramic Society of Japan (略称JCS-Japan) 125巻3月号に掲載され、表紙に採りあげられました。

学生3名が「第6回サイエンス・インカレ」で奨励賞を受賞

3月4～5日に開催された「第6回サイエンス・インカレ」ポスター発表部門において、環境理工学群4年 松本 遼くん、梅本 優菜さん、正岡 志乃さんによる発表がサイエンス・インカレ・コンソーシアム奨励賞(グッドパフォーマンス賞)を受賞しました。

学生の研究論文が学術論文誌に掲載、ビデオ抄録も掲載されました

博士後期課程 基盤工学コース2年 Hien Thi Thu Nguyenさん(指導教員 小廣 和哉 教授)の研究論文がEuropean Journal of Inorganic Chemistry (略称Eur. J. Inorg. Chem.) Very important papersとして掲載され、表紙デザインにも採用、さらに研究グループ紹介も掲載されました。また内容紹介のビデオ抄録が同学術論文誌のホームページに掲載されました。

環境工学委員会 若手優秀発表賞に学生2名が選出

8月下旬に開催された日本建築学会大会(九州)学術講演会で、修士課程 社会システム工学コース2年 大西 裕治さんと河田 浩太郎さんが研究発表を行い、「環境工学委員会 若手優秀発表賞」に1月11日、選出されました。

川原村 敏幸 准教授の研究が日経テクノロジーonlineに取り上げられました



システム工学群 川原村 敏幸 准教授が、第64回応用物理学会春季学術講演会で講演した内容が、日経テクノロジーonlineのコラム「鶴岡育弘のテクテク見聞録」に取り上げられました。講演は川原村 准教授が研究する薄膜成膜方法「ミストCVD法」について発表したものです。

日本化学会中国四国支部 支部長賞を学生2名が受賞

平成28年度 日本化学会中国四国支部 支部長賞を、修士課程物質生命システム工学コース2年 村岸 建吾さんと、環境理工学群4年 楠原 雅貴くんの2名が受賞。これは化学の授業、実験ならびに研究を通して優れた成績をあげた学生に与えられる賞です。

渡辺菊真准教授の作品が2017 Architizer A+Awards ファイナリストに選ばれました

システム工学群 渡辺 菊真 准教授がデザインし、学生らとセルフビルドで建設した「金峯神社の通拝殿」が、100カ国、3,000点以上の応募の中から、宗教建築部門で5つの優秀作品(The Architizer A+Awards)のひとつに選ばれました。



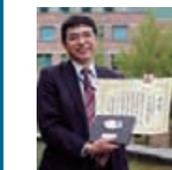
日本機械学会中国四国支部講演会で3名の学生が優秀賞を受賞

3月6～7日、日本機械学会中国四国学生会第47回学生員卒業発表講演会および中国四国支部第55期総会・講演会が開催され、鈴木 佑くん(システム工学群4年)、西森 賢さん、飯塚 卓邦さん(ともに大学院修士課程知能機械システム工学コース)が優秀発表賞及び若手優秀講演フェロー賞を受賞しました。



西脇教授が日本油化学会「学会賞」を受賞

公益社団法人日本油化学会が主催する平成28年度(第51回)学会賞を環境理工学群 西脇 永敏 教授が受賞しました。本賞は化学または工業に顕著な貢献のあった研究成果に対して送られます。4月24日、東京中央区 公益社団法人日本油化学会にて表彰式が執り行われ、学会賞の賞状・賞牌が授与されました。



KUT announcement

平成28年度卒業式・学位記授与式を執り行いました

3月24日、平成28年度卒業式・学位記授与式が挙行されました。学士課程468名、大学院修士課程81名、博士後期課程10名の計559名の卒業生・修了生にそれぞれの学位記および卒業証書が授与されました。その後、学業成績および課外活動等で優秀な成績を修めた学生たちへ、各種表彰が行われました。式典終了後は、在学生、後援会、香美市商工会の共催による卒業記念行事「えん」が開催されました。

学生表彰受賞者

システム工学群 窪添 諒	曲 勇作
システム工学群 狭間 弘菜	須和 祐太
システム工学群 福本 勇樹	佐久間賞(修士課程) 松崎 俊祐
環境理工学群 越智 響	水本 聡
情報学群 福田 和馬	村田 祐也
マネジメント学部 嶋田 大陸	大西 裕治
システム工学群 津村 篤志	佐久間賞(博士後期課程) Adam Michal Pander
マネジメント学部 成田 湧介	平井 翔

International exchanges

インド工科大学ボンベイ校と大学間協定、学生交換協定を締結しました

2月27日、インドのムンバイにあるインド工科大学ボンベイ校(Indian Institute of Technology Bombay, IITB)と、教員・研究者、学生、学術情報の交流及び共同研究活動に関する大学間交流協定を締結しました。これで本学との協定校は、45大学目となりました。



Regional contribution activities

清水副学長が高知県警察本部よりサイバー犯罪対策アドバイザーを委嘱されました

5月17日、清水 明宏 副学長が、本年度の「高知県警察サイバー犯罪対策テクニカルアドバイザー」を委嘱されました。高知県警察本部は、不正アクセスやウイルス感染等、サイバー犯罪に対応するため、平成26年度より、捜査員が専門的な視点から指導・助言を受けるためのアドバイザー制度を運用しており、本年度も捜査員を対象とした講演や講義を通じ、捜査能力の向上を図るなどのサイバー犯罪対策に貢献していきます。

学生団体が高知県警察本部より「サイバー防犯ボランティア」の委嘱を受けました



6月27日、情報ボランティア団体「Cykut(サイカット)」が、高知県警察本部より「サイバー防犯ボランティア」の委嘱を受けました。大学で学んだ情報に関する知識を生かして高知県警察本部と協力し、インターネット上の違法・有害情報のパトロール活動(サイバーパトロール)、サイバー犯罪の被害防止のための教育活動や広報活動を学校や団体に申し行っています。

平成29年度入学式を挙行了しました

4月5日、平成29年度入学式が行われ、システム工学群、環境理工学群、情報学群、経済・マネジメント学群をあわせた学士課程562名、3年次編入2名、大学院修士課程114名、博士後期課程11名の計689名の新生を迎えました。



開学20周年記念式典開催!

2017.11.4(土) 高知工科大学 香美キャンパス 講堂 13時～

開催時刻は予定

記念講演 13:45～

「神岡でのニュートリノ研究をふり返って」



東京大学 宇宙線研究所所長
梶田 隆章教授
(2015年ノーベル物理学賞受賞)



20周年記念祝賀会

ホテル日航高知 旭ロイヤル 18:30～

20周年記念事業は、他にも盛りだくさん!

- 心に響く音楽の調べ in 工科大 ……………9月20日(水) 香美キャンパス:東京藝術大学の協力で開催する若手演奏家による公開コンサート
- 社会マネジメントシステム学会(SSMS)第11回国際シンポジウム …… 9月20日(水)～21日(木) タイバンコク:本学発の国際学会によるシンポジウム
- 日本環境共生学会第20回記念(2017年度)学術大会 …9月22日(金)～24日(日) 永国寺キャンパス:テーマ「気候変動への適応策と緩和策ー地域からの総合的展開ー」
- 地域活性化システム論 ……………10月22日(日)・29日(日)、11月12日(日):内閣府連携事業として開催する公開講座
- 第6回フロンティアテクノロジーシンポジウム(ISFT) …11月5日(日)～6日(月) 香美キャンパス:世界各国で活躍する本学卒業生を中心とした国際シンポジウム

KUT events

高知工科大学 Flying Fish Festival 2017
10月14日(土)・15日(日)

今年のテーマは「Remake」
例年通り、大学に隣接する鏡野公園での「刃物まつり」(主催:香美市商工会)も同時開催です。



高知工科大学よさこい踊り子隊 今年も出場します。
ご声援よろしくお願いします!

『芽吹き～永遠への願い～』がテーマ。
第49回土佐山田まつりは8月5日(土)、
高知市で開催のよさこい祭りは
8月10日(木)11日(金)

